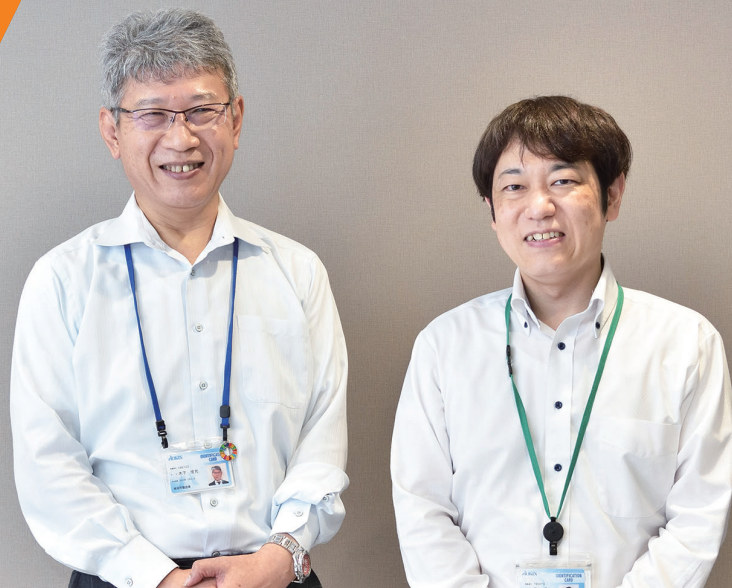


シンクライアントに 信頼性と実績の NetAppを選択



業務用PCをシンクライアントへ移行する企業が増えている。東海労働金庫もその一例だ。金融機関に必要な高いセキュリティと信頼性を確保しながら、PCの管理負担とコストの削減を同時に目指す。マルチベンダーで各社製品の特長を良く知る兼松エレクトロニクスをパートナーに、NetApp AFF/FASシリーズの特性をうまく活かした。

OS更改は全面移行の好機 オンプレミスで低コスト図る

東海労働金庫は、労働者の経済的地位向上に資することを目的とした協同組織の福祉金融機関で、愛知、岐阜、三重の3県にある労働組合や地域生活協同組合の組合員を主な顧客層としている。第9期中期経営計画（2020年度～2024年度）でIT戦略を重要施策の1項目に掲げ、事務管理部門の1グループであった「IT統括グループ」を「IT戦略プロジェクトチーム」という形で1部署として発展、独立させた。顧客サービスと業務環境のデジタルトランスフォーメーション(DX)を大きく推進する。

その初仕事として、職員が使用する業務用

PCをシンクライアントへ移行するプロジェクトを進めてきた。今年2月にシステムが完成し、4月から実稼働に入った。4月～7月までの4か月間で、域内39拠点を含め全職員の約8割が移行している。

きっかけは、Windows 7 のサポート終了だった。Windows 10 への更新も考えたが、職員の使い勝手や管理工数を勘案した結果、シンクライアントへの移行を選択した。職員が使用していた従来の業務用PCは導入時期やメーカーが異なり、環境もばらばらだ。アプリケーションの更新や不具合への対応が複雑になり、職員とIT部門管理者の双方にとって大きな負担になっていた。

また、金融機関ならではの事情もある。金融機関は不正防止や人材育成の観点から人事異動が多い。東海労働金庫でも異動のたびにPC

健全・安心・貢献
東海ろうきん



■ 商 号

東海労働金庫

■ 設 立

1952年（昭和27年）

■ 本 社

〒460-0007
愛知県名古屋市中区新栄1-7-12

■ 従業員数

666名（男性354名、女性312名）
※2020年4月1日現在

■ 事業内容

信用金庫・労働金庫・信用組合

URL: <https://tokai.rokin.or.jp/>

課題

Windows 7 のサポート終了を機に、従業員のPCの更改が求められた。従来の業務用PCの多くは導入時期やメーカーが異なり、ソフトウェアやセキュリティの管理が大きな負担になっていた。

解決策

オンプレミス型シンクライアントへの全面移行を決断。ホストサーバーにはデル・テクノロジー、ストレージには実績のあるNetAppを採用し、現時点では、全職員の約8割にあたる700～800人の同時接続に対応する。

成果

同一の仮想マシンを配布することで全従業員のPC環境を統一。リンククローン方式や遠隔操作により管理負担が激減した。OSやアプリケーションが常に最新の状態で維持されている。

の設定やファイルへのアクセス権などを調整する必要があった。

東海労働金庫IT戦略プロジェクトチーム担当部長の木下倍充氏は、「今こそシンクライアントへ移行する好機」と考えた。当初はクラウドも検討したが、コスト面からオンプレミスを選択し、そのパートナーとして兼松エレクトロニクスを選んだ。「提案内容とコスト感が合致し、何を頼んでもレスポンスが早いのが印象的でした」（木下氏）。兼松エレクトロニクスとの取引は今回が初めてだ。不安もあるが、期待も大きかったという。

20年超の実績でNetAppを知り尽くす「Star Partner」の優位性を発揮

兼松エレクトロニクスが提案の中心においた点は、「リンククローン方式」の活用とNetAppの採用だった。「リンククローン方式」により、OSやアプリケーション、セキュリティパッチなどの更新時には、マスターPCを変更すればすべての仮想マシンに自動的に反映される。管理工数が小さく、システム全体を低コストで構築できるメリットがある。

仮想マシンのホストサーバー14台と管理系ホストサーバー2台にはデル・テクノロジーの機材を採用。プライマリ・ストレージに「NetApp AFF

A220」、バックアップストレージに「NetApp FAS2720」を採用した。これで700～800ユーザーの同時接続に対応する。

ストレージはコスト的な制約からSSDとHDDのハイブリッドで検討したが、すべてをSSDにしなければNetAppの性能を十分に活かせない。そこで、兼松エレクトロニクスがNetApp社と調整し、オールフラッシュでありながら、最適な費用感を実現した。

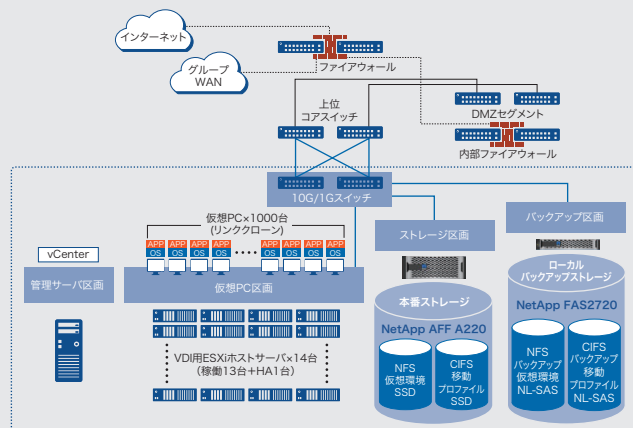
兼松エレクトロニクスはNetApp最上位「Star Partner」、「自営保守パートナー」として、20年超の親密な歴史を元に、サイジング、販売、構築から全国自営保守網を有する国内トップレベルのNetAppパートナーだ。NetApp社と連携し、お客様の予算感に合うように価格をギリギリまで調整し、対応した結果だ。

各メーカーの特長を活かしたマルチベンダーの特性が奏功

全国に13ある労働金庫が共通で使用しているオンラインシステム「アール・ワンシステム」。これとセキュアにつなぎ、業務をストレスなくできることが条件となった。プロジェクトは順調に進んだが、トラブルが無かったわけではない。「当金庫は全職員がほぼ同時に始業するため、朝にログインが集中して渋滞する問題（いわゆるブートストーム）が発生しました」（木下氏）。

兼松エレクトロニクスに相談すると、すぐに担当者がオフィスに来て状況を確認し、ログ解析によって原因を突き止め、早急に解決したという。

概要構成図:VDI 1000ユーザー



東海労働金庫が導入したシンクライアント基盤の構成。プライマリ・ストレージに「NetApp AFF A220」、バックアップストレージに「NetApp FAS2720」を採用



この対応の早さを木下氏は評価する。

東海労働金庫IT戦略プロジェクトチームの陰地慶太氏は「シンクライアントへの移行後、PCのトラブルも管理部門への問い合わせも減りました」と語る。すべてのPC環境が統一され、OSやアプリケーションが常に最新の状態で維持されている。

今回のプロジェクトでは、サーバーとして信頼性の高いデル・テクノロジーと、ストレージのトップベンダーNetAppを活用した。各メーカーの特長を深く理解し、最適解を見つける兼松エレクトロニクス。マルチベンダーとしてのユニークな特性を活かした事例と言えそうだ。

